

「研究テーマ」

新聞コラム・社説を利用した進路実現に向けての文章力を身につける実践

雲雀丘学園中高等学校 校長 影浦正二

教諭 川口隆行

I はじめに

雲雀丘学園中高等学校は、兵庫県宝塚市にある私立の中高等学校である。同法人の設置校として、2つの幼稚園、中高と同敷地内にある小学校がある。学園の基本理念として、初代理事長・鳥井信治郎の「親孝行なひとはどんなことでも立派にできます」に由来する「孝道」を基本とした人間教育を掲げている。また中高の校是は「高志」「自律」「努力」であり、高い志を持ち自らを律し、その達成に向けてたゆまぬ努力を続ける生徒たちの育成を図っている。

本校は平成24年度にNIE実践校指定を受けた。実践校指定をいただくにあたっては、実践者代表の私が以前に勤務していた大阪の高校が実践校の指定を受けており、そこでの取り組みが非常に有意義なものだったと紹介したことから、本校もNIE実践校として取り組む希望があり、申請させていただくこととなった。また、本年度は実践校の指定を受けて2年目で、1月の25日には「兵庫県NIE実践発表会」で、高等学校の部での発表を行った。

II 学校としての取り組み

1) 新聞閲覧スペースの設置

昨年度は、提供をいただいた新聞を授業等で教員が利用するのみで、生徒が自由に閲覧できるスペースがなかった。よって、本年度は中学校舎と高校校舎の間にある中央棟の自

習スペースの一角に、「NIEコーナー」を設け、NIE活動の紹介文を張り出し、向かいにある自習用の机・椅子で、提供いただいた各紙が自由に閲覧できるようにした。



【NIEコーナー】

2) 各学年での取り組み

高2 <コラム書き写しと社説要約(講習)>
(実践事例として後の項で詳しく説明)

<新聞記事ノート(休暇中の課題)>

夏季休暇 8本 冬季・春季休暇 4本
ノートに新聞記事を切り抜き、記事についてコメントを書く。HRでノートをクラス内で交換し、相互評価をさせる。

高1 <新聞コラムプリント(毎週朝学習)>

新聞朝刊コラムを抜粋したプリントを配布し、記事の要約・語句調べ・意見をそれぞれ書かせて提出させる。

中2 <新聞を読む(毎週朝学習)>

新聞記事を抜粋したプリントを配布、記事の内容を読ませて感想を書かせる。

3) 教科としての取り組み

高3 現代社会演習<5分間スピーチ>

新聞から自由に記事を選択させ、切り抜き、意見を書いてくる。印刷して生徒に配布し、授業の初め5分間でスピーチをさせる。聞き役の生徒たちは感想を書き、回収した用紙をチェックしたのち発表生徒に渡す。

中1・2 歴史<歴史新聞作成>

歴史の授業の夏季休暇中の課題として、各生徒が興味のある人物や事件に関する歴史新聞を作成し、画用紙に書いて提出する。各クラスの優秀な作品については、年度末に社会科で実施している「社会科発表会」の場を利用して、OHPを使い発表を行う。

(昨年度の発表例「川西の象徴・源満仲」「大坂(天下の台所)」「天璋院篤姫」「城塞都市カルカソンヌ」「項羽と劉邦」など)



【社会科発表会での歴史新聞発表】

4) 新聞記者の派遣講座

中3<沖縄研修旅行の事後学習>

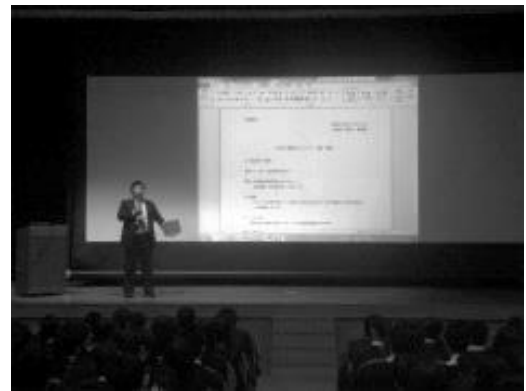
日時：平成25年11月27日(水) 1限

場所：学園講堂

講師：毎日新聞阪神支局 山田毅記者

対象：中学3年生全員

内容：沖縄研修旅行の体験を、それぞれが新聞にして発表できるように、新聞ができるまでや文章の書き方、記者生活について講義していただいた。最後には簡単な取材体験をして、実際に記事を書いた。



III 実践事例

新聞コラム書き写し・社説要約

対象：高校2年生・長期休暇中の講習授業

教科・科目：高等学校の総合学習、

キャリア教育・進路指導

第1段階 実践者が任意に選んだ新聞

コラム(「正平調」など)を書き写す

第2段階 新聞コラムを読んで考えた

感想を書く

第3段階 任意の社説記事を10分間で

100字以内にまとめる

実施時間：長期休暇中講習・1コマ50分

目的：新聞記者の書いたプロの文章から、

入学試験に向けた文章力を学ぶ

過程：大学入試の小論文を代表とする記述

形式の回答に備え

- 1) 文章を単純に書き写す
- 2) 自らの考えをまとめる
- 3) 文章を要約する

という3段階で記述力を育成する。

学習活動：

その週（できればその日）の新聞コラムを転載、下にマス目を用意したプリントを配布する。また、裏面には感想を書く欄を用意する。

裏面下半分には社説の記事を転載し、内容を100字以内で要約する欄をつくる。

① 新聞コラムの書き写し

新聞コラムの文章を一字一句そのまま書き写す。

② 新聞コラムの感想

その日書き写した新聞コラムの感想を裏面の感想欄に自由に記述する。

③ 社説の内容要約

社説記事を100字以内で要約する。

以上の内容をB4判1枚のプリントにまとめて実施する。

昨年までは担任をしている学年の朝学習という形で行っていたが、本年度は授業担当をしている高校2年生の長期休暇中の講習で行った。①②については講習授業前に教卓の上に置いてあるプリントを各自が教室に入った際に取り始め、講習授業は内容の解説や前回の要約の講評などを行う。その後、③について計時したうえで取り組む。

出来上がったプリントは回収し、コラム書き写しは確認・捺印、社説要約はコメントを書いた上で次回の授業時に各

人にプリントを返却する際、優秀な4～5枚をまとめたプリントを同時に配布する。

留意点：

工夫として書き写し・要約は横書きで書かせた。

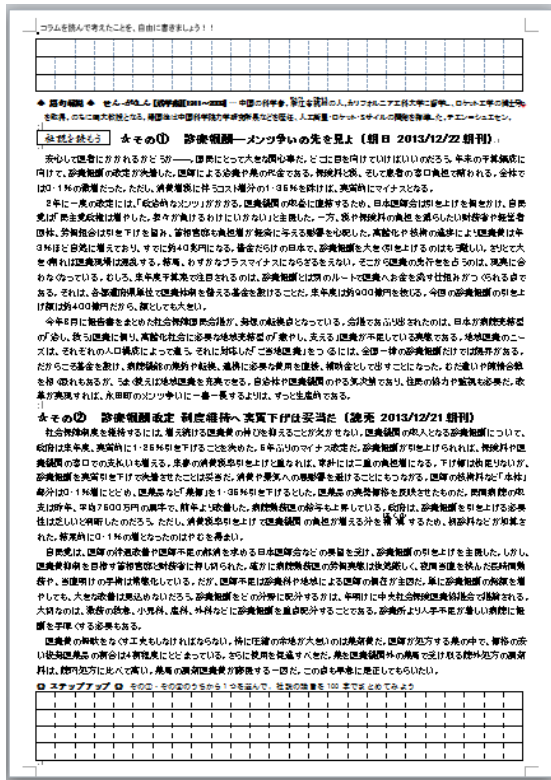
コラム・社説記事の選定については、なるべく内容に偏りが出ないように、政治・経済・社会・スポーツ・文化・科学など全般が網羅されるよう留意した。また、新聞社についても兵庫県6紙と時には他県の地方新聞、スポーツ紙のコラムを題材にした回もあった。

社説は回によっては、同じ題材の記事を論調の異なる2つの新聞社のものを転載し、一方を選択させるなどの工夫をした。



【新聞学習プリント

表面・新聞コラム書き写し】



【新聞学習プリント

裏面・感想欄／社説要約】

生徒の反応：

昨年度までは朝学習で取り組ませていたものが、講習で希望者を対象に実施したこともあり、当初から非常に意欲的に取り組むことができた。ただ、社説要約については、上の学年同様、最初は時間内にできる生徒とできない生徒がはっきりと分かれた。それでも書けるようになるまでかかった期間は短かったように思う。

実践の成果と課題：

昨年度から取り組んできた社説の要約について、添削とともに配布してきた「優秀な要約の例」のプリントが効果的であったと思う。10分で社説の読み込みから100字要約までをさせるので、非常に時間的にもタイトであるが、実際の大学入試の小論文トレーニングとしては、質的にも量的にも良いものであった

と思われる。ただ、全員分の添削は非常に負担が大きく、そういった点をどうするか、これからの取り組みの課題であろう。

IV おわりに

2年間の取り組みを通して、もっと色々できたのではないかと思うところはたくさんあったが、限られた時間の中でやってきたことで一定の成果を上げられたことは嬉しく思う。特に昨年度の担任をしていた学年・学級では、もともと文章を書くのが苦手な朝学習の社説要約もなかなか最後までできなかった生徒が、時間とともに徐々に制限時間内にまとまった文章を書けるようになり、入試で小論文が課される受験形式の学部を選んで、合格してくれたことは生徒にとっても私にとっても大きな自信となった。

また、NIEについての取り組み自体は非常に有意義であるが、それに費やす時間が莫大であるため、各々の教員が独自でやっている実践が多く、全体としてのまとまりに欠ける部分があった。今後の課題としたい。

実践校の指定をいただき、生徒が生きた教材としての新聞に触れるチャンスを頂けたことはとてもありがたかった。実践校でなくなっても、継続した取り組みと、更に新しいNIEのチャレンジを重ねていけるよう、これからも努力していきたい。